

うさぎ の ブランコ



2025.1

49

ふゆ号

【開催報告】

令和6年度 第1回 事例検討会
「発達障害のあるこどものリハビリテーション支援」

令和6年度 第2回 事例検討会
「多職種連携で支える障害のある人の小児期～成人移行期支援」



丹後圏域地域リハ支援センター 公式 LINE

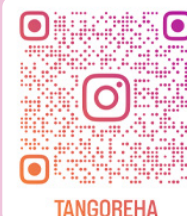
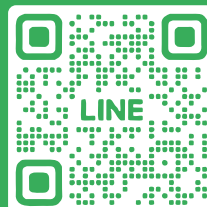
公式 Instagram

LINE 公式アカウント

友だち
募集中

@513gckqy

主催研修会情報、
活動紹介等の最新情報
を発信します



TANGOREHA

令和6年度 第1回 事例検討会

「発達障害のこどものリハビリテーション支援」

日時:令和6年11月19日(火) 17:30～19:00

会場:各所属先(Web開催) 参加者:20名

実践報告

「できますよ！みんなでしましょう！子どもの支援
～リハビリテーションの視点を生かして～」

市立福知山市民病院

作業療法士 山本 香織 氏



子どもの支援についてリハビリテーションの視点からどのように対応するか、考えるのか、どのような点に注意すべきか、作業療法の評価・治療過程を通して支援方法についてご報告していただきました。

大人リハと子どもリハの違いと共通点

共通点



相互作用を分析し、大切な
作業を遂行できるように支援

違い

- ・発達の上である
(正常発達の知識が必要)
- ・疾患特性
- ・ライフサイクルが目まぐるしく変化
- ・次のライフステージに繋がる支援が必要
- ・見通す先が長い(納税できる大人へ)

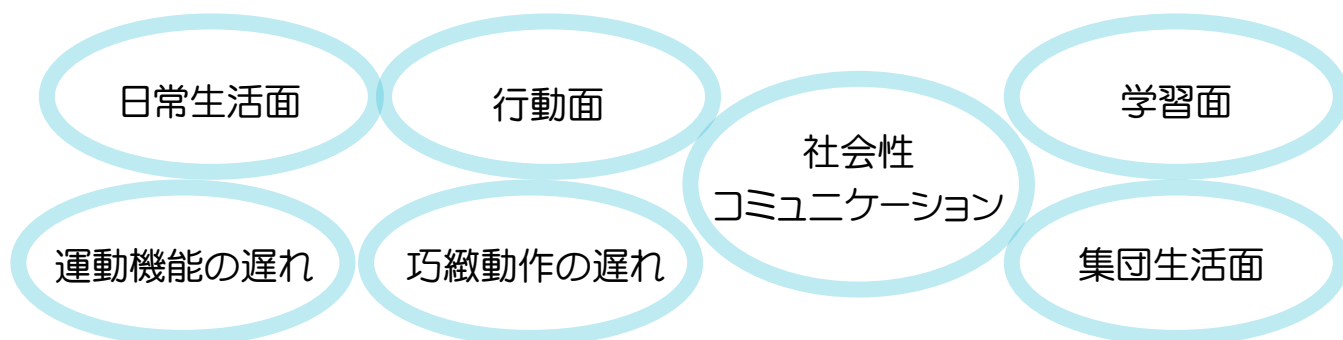
子どもリハビリテーションで大切にしていること

- ・子どもの生活している場(ライフステージ)を理解する
- ・子どもの視点を大切にする ⇒ 子どもがどんなことに困っているか
- ・常にどんな大人へ成長してもらいたいかを考えながら、それにつながる今できる支援をする
- ・取り巻く支援者との連携が特に大切
- ・楽しくなくちゃ始まらない
(内的欲求を大切に。トレーニングではありません。「やりたい」と主体的に動けるように)

子どもリハの実際

情報収集・観察・実際の関わり

子どもたちの主訴は？



作業療法の目標/目的

- ・子どもたちの生活する集団の場で生き生きと過ごすこと

保育園や学校につなげる支援

- ・生活の場である学校などの集団の特徴を評価分析
- ・そこで求められる課題を踏まえた **集団での具体的支援**

子どもの将来に向かって育てる支援

- ・子どもたちの将来にわたる生活を考慮
- ・子どもの発達段階に応じた **生活支援**



子どもたちの行動には必ず理由(子どもの思い)がある!

理由がわかる

子どもの気持ちがり、
解決策も立てられる

ポジティブな考えへ

理由がわからない

解決策を提案できずに
叱ってしまうことに…

ネガティブな考えへ

理由(子どもの思い)が分かれば、声掛けや活動の順番・自由遊びに
誘う時の活動内容など少しの工夫で子どもが変わる



情報交換



丹後の各施設において小児のリハ支援

→丹後において小児のリハ支援を行う施設が増えてきたことがわかりました。

小児リハのイメージがついていない

成人と同じ点、違う点があり、
効果が出ているのか？

目標設定が難しい

小児に治療に関わったことが
なく、知識が漠然としている。

リハでの
不安

これからの介入で、
将来に向けてより良くして
いくにはどうすれば良いか？

小児リハの研修会があれば

楽しみながら効果が出ているのか？

山本氏 の意見

小児を取り巻く環境での関係づくりが重要。対応できるのが1病院だけでは難しく、多施設で協力していく必要がある。

大人へのリハビリでも生活に戻すことの不安はある。小児リハでは目の前に小児が来た時に、1つでも可能なことをチャレンジする。

参加者の感想

場違いな気がいたしましたが、複合的に関わる機会も出てくる可能性があり、知識や関係とのつながりを大事にできていると思っています。

私は、発達障害の子供抱える父親であり、医療従事者（支援者）でありという両側の立場で本日の話を聞かせて頂き丹後でもこれだけ多くの方が思いを持っておられることを知れてとてもよかったです。どんどん良い方向へ丹後の小児支援が向かっているように感じました。

今まで何もわからない状態でしたが、今回の事例検討会で小児の分野も興味を持てました。

発達障害について捉え方や評価、具体的な事例からOTの関わり方について知ることができて本当によかったです。

悩みをみんなで共有することができ、不安が少し軽減したように感じます。

今後も小児リハの輪が広がっていくと有り難いです。

講演を聞いて小児のリハビリテーションの実践へのハードルが少し下がったような気がする。これからも皆さんと協力して丹後圏域の小児リハを実践していけたらと思います。

みんな同じように不安を感じながら介入していると思いました。
一人ひとり介入しながら経験を積み重ねて適切な介入ができるようになりたいと思います。

令和6年度 第2回 事例検討会

「多職種連携で支える障害のある人の小児期～成人移行期支援」



日時: 令和6年12月18日(水) 16:30～18:30

会場: 各所属先(Web開催) 参加者: 38名

報告・各立場の思い「成人移行期支援での関わり」

「医療的ケア児に対する保健所支援について」

京都府丹後保健所 保健師 古川 千寿 氏



① 消防連携

管内に居住する重症難病患者(指定難病患者及び小児慢性特定疾病患者)の救急搬送に係る情報共有など

② 救急搬送訓練

1. 救急要請シミュレーション

- ・119番通報の手順確認
- ・救急車到着までの処置の確認・引継
- ・救急車への持ち込み物品の確認

2. 移乗等確認

- ・バギーからストレッチャーへの移乗方法の確認
- ・搬送経路の確認
- ・救急車内の設備確認

③ 災害対策

防災のしおりの作成



- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 災害時の備えについて | 5. 災害に関する避難等の制度について |
| 2. 備え状況の確認について | 6. 医療処置情報について |
| 3. 避難場所と避難方法について | 7. 避難時の持ち出し物品について |
| 4. 災害時の対応について | 8. 関係機関の連絡先一覧 |

④ 意思伝達装置の導入調整

意思伝達装置は、神経筋疾患等の進行性難病等により重度の肢体不自由及び音声言語機能障害を有する人が意思表示のために使うコミュニケーション機器の1つ

医療的ケア児 とは

医学の進歩を背景として、NICU(新生児特定集中治療室)等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと。全国の医療的ケア児(在宅)は、約2万人(推計)である。

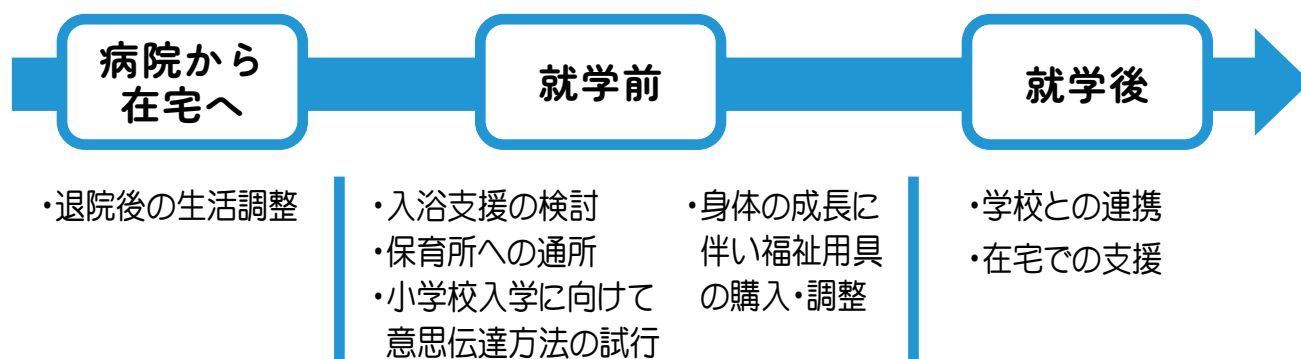
医療的ケア児の方への支援を通して、
どのような対応や考えをしていたか発表していただきました。

「成人期への移行に向けて」

障害者地域生活支援センターもみの木
相談支援専門員 渡邊 明子 氏



ライフステージによって課題があり、支援が異なる



成人期への移行を見据えた支援

将来の生活をイメージ

→ 現在のサービスに留まらず、様々な機関・サービスとつながっておく

早めの準備

→ 自立支援協議会などの活用



繋がり、の広がり、深まり

地域とのつながり

→ 災害時の備えとしても重要

同じ病気をもつ方やその家族との関わり

→ 本人、家族のメンタル面でのサポート

関係機関とのつながり

→ 「相談」はもちろん、ちょっとした出来事などを「雑談」しあえるチーム作り



「本人」や「家族」 を中心に連携

- ・本人や家族の意向やペースを大切にする
- ・メンタル面でのサポートは必須



支援学校での生活や支援、退院後の施設でのサポートや工夫・連携について医療的ケア児の方を通して発表していただきました。

京都府与謝の海支援学校
講師 **高田 真希 氏**



マ・ルートワンダーハーバー
児童指導員 **石田 宙 氏**
生活支援員 **清水 真実 氏**
看護師 **田井 ひろ美 氏**



参加者の感想

医療と教育機関で連携する時に教育機関から知れる情報が具体的にわかったので連携しやすくなったと感ずることができました。

わからないことが不安、怖さにつながり、支援者が制限をかけてしまうこともある。本人の強み、興味、持っている能力、体調を知っておくことが大切だと改めて感じた。また多職種が連携することでさらに本人や家族の望む生活に近づいたり経験の幅が広がる。～だからできないではなく、～ならできると、チームで検討したり自事業所ではかなわないことも連携することで補い合えると感じた。関わっていた医療的ケア児もケース会議、京あんしんネットを介してリアルタイムで関係機関がつながったり、支援ファイルのようなものも作成されていた。緊急時の受け入れ先などの確認していた。特に有事の際の確認は受け入れる側の体制づくりもだが保護者にとっての安心にもつながると感ずる。貴重なお話をありがとうございました。

支援学校での過ごし方がとても参考になった。動画もあり、分かりやすかった。学校のような支援を継続できたら1番良いとは感ずたが、現実には施設のマンパワー不足の問題も大きく難しい。

小児の方々への関わりが少ない中で、他職種からの意見やどのように情報共有を今後行えば良いか改めて考えることができました。また、小児患者様へどのような関わり方をされているか理解できる機会となりました。

小児期～成人期のそれぞれの時期に関わった機関の、細やかな配慮や本人への想いも繋げ、移行がスムーズに出来たとても良い事例だったと思う。丹後エリアは人口が少なく受け入れ先の選択肢も少ないが、顔の見える関係が築きやすいメリットもあるので、いかに繋がりを広げ深めていくかが支援や連携のし易さになるのではないかなと思う。

情報交換でもお話が出ていましたが看護師としては一度ろむさんの看護師さんと意見交換が出来る場を是非作って頂きたいです。

今回の事例の方は難病であることから、ここまでの幅広い支援体制が構築されたかと思いますが、それ以外のケースでも関係者間の連携を、声がかかるのを待つのではなく、自分からも発信していくことが必要だと感ずました。

実際に、Aさんの情報だけではなく会ってみることも大切だと思いました。関わりを通していろいろな方に知っていただき、支援の幅が広がっていけばと思います。

令和6年度

丹後圏域地域リハビリテーション実践交流会 お気軽サミット



日時

2025. **2.7** (金)
15:00-17:00

場所

ハイブリッド形式で開催

◆ 丹後中央病院 ふたばホール

◆ WEB(ビデオ会議ツールZOOM)

※相互交流がしやすい会場参加を推奨します

実践報告

「くも膜下出血後に働く(かがやく)場所を取り戻すための取り組み」

社会福祉法人 みねやま福祉会 総合老人福祉施設はごろも苑
介護支援専門員 北川 昇平 氏

「認知症の支援の現場から～まちづくりと地域リハビリテーションの可能性」

グループホームふれあい
施設長 桑原 さわ江 氏

「障害があっても歳をとっても、食べることを楽しもう」

Seat Table
言語聴覚士 笠井 幸子 氏

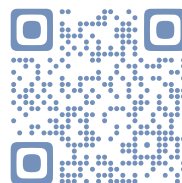
対象者

丹後保健所管内(宮津与謝地域・京丹後市)
地域リハビリ関係者

- ・医療機関(医師、PT、OT、ST、看護師等)
- ・介護保険事業所(ケアマネージャー、訪問看護師、介護職員等)
- ・障害者福祉関係者(相談員等)
- ・市町包括支援センター職員、市町介護予防事業従事者等
- ・市町村及び保健所保健・福祉担当者等

申込み

二次元コードにてWebに
アクセスの上、お申込ください。



丹後圏域地域リハビリテーション支援センター
(公益財団法人 丹後中央病院内 電話:0772-62-8301)

編集後記

今年度は小児をテーマに第1回、第2回の事例検討会を開催しました。小児に関わる方やこれから関わろうと考えている方、様々な方が集まる機会となり、今後も継続して丹後全体での連携を図っていききたいと考えています。また、今年度も2月にお気軽サミットが開催される予定です。ぜひ、発表者の報告を聞いた上で、参加者の皆さんが感じたこと、考えたことを話し合い、対面での交流の相乗効果によって、丹後の地域リハビリテーションが活性化されることを期待しています。(H.S)

編集/発行：丹後圏域地域リハビリテーション支援センター(公益財団法人丹後中央病院)
連絡先：Tel0772-62-8301/FAX0772-62-8302 / e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

「丹後地域リハ」で検索！

